

# ハトムギ通信（第3号）

令和2年7月7日  
アルプス農協管内農業技術者協議会



## ハトムギ栽培のポイント～除草対策、うね間かん水～

- ◎除草と生育量確保のため、培土は必ず2回実施しましょう。
- ◎中耕作業で雑草が抑えられない場合は、草種に応じて除草剤を散布しましょう。
- ◎高温乾燥に弱いので、高温少雨が予想される場合は、うね間かん水を行いましょう。

## 1 生育期の培土及び除草

### （1）培土及び中耕による除草

- ・ハトムギが大きくなる前に雑草が発生してきたら、中耕による除草を行いましょう。
- ・培土作業は、中耕除草と兼ねて①播種後25日頃と②1回目の10日後頃の2回、確実に実施しましょう。

草丈が80cm程度までは培土作業が可能です。確実に2回実施しましょう。



### （2）薬剤による除草（中耕で雑草を抑えきれない場合）

薬剤名	適用雑草名	使用時期	薬量	使用回数
バサグラン液剤 (全面散布が可能)	一年生雑草 (イネ科雑草除く)	雑草3~6葉期 但し収穫45日前まで	150ml/10a (希釀水量100l)	2回以内
プリグロックスL <sup>※</sup> (うね間処理に限る)	一年生雑草	雑草発生期(出穂前まで) 但し収穫60日前まで	600~1,000ml/10a (希釀水量100l)	2回以内

※『プリグロックスL』は非選択制除草剤のため、ハトムギにはかからないよう、ていねいに散布しましょう。

## 2 うね間かん水

- ・ハトムギは、出穂始め（7月中旬）以降成熟期まで、最も水分を必要とします。今年の夏は高温少雨が予想されています。積極的に「うね間かん水」を行いましょう。



### 水分不足になると…

- ①肥料の吸収が抑えられ、生育が停滞する。
- ②植物体内から水分が蒸発し、葉が巻き始める。

この状態になってしまったら、手遅れです…。



写真 水分不足で萎凋したハトムギ

### ●うね間かん水の方法

- ①ほ場全体に水が行きわたるよう、十分にかん水を行う。
- ②うね間かん水後は、自然落水する。



葉が巻く前に、  
うね間かん水！

アワノメイガの防除を行っていない場合は、速やかに実施して下さい（通信第2号参照）